



東邦大学 佐倉だより



vol. **49**
2020.9.1

基本理念

- 医療の目的 質の高い医療を安全に提供する病院
- 病診(病)連携 地域に貢献する病院
- 教職員のある方 人間愛を共有する病院
- 職場環境 楽しく明るくチャレンジする病院
- 生涯教育 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

東邦大学医療センター佐倉病院

発行：広報委員会・東邦佐倉会事務局

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1

TEL 043-462-8811 (代) FAX 043-462-8820 (代)

URL <https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



Topics News

1 Executive Message

千葉県内の大学病院で初めて臨床研修機能評価で4年認定を受けました。
—臨床研修をみれば病院の実力がわかる—
副院長／教育担当 龍野 一郎

2 アピールしたい診療と研究：カラダにやさしい乳癌手術 乳腺外科 教授 神原 雅裕

3 昇任紹介：遺伝性腫瘍に対する臨床遺伝診療センターの取り組み 臨床遺伝診療センター 部長／臨床教授 竹下 直樹

3 透析室について：透析室の機能と患者動向 腎臓内科 准教授 大橋 靖

4 第13回・第14回 医療連携セミナーを開催して：医療連携・患者支援センター長 吉田 友英
医療連携セミナー 次回開催予告

2020年度の祝日における 診療体制について

- 2020年11月23日(月・祝) 勤労感謝の日
- 2021年 1月11日(月・祝) 成人の日

※左記の祝日は平日診療体制となります。

患者さんのご紹介・ご依頼は、通常通りお受け致します。

Executive Message

千葉県内の大学病院で初めて臨床研修機能評価で4年認定を受けました。 臨床研修をみれば病院の実力がわかる



副院長／教育担当

龍野 一郎

Ichiro Tatsuno

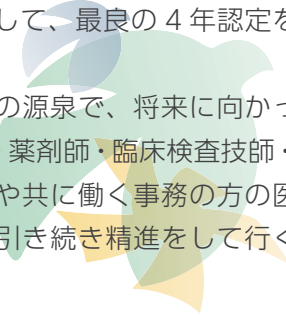
誰もが優れた病院に受診したいと思われるのは普通の事と思いますが、どのような基準で選ばれますか？診療科数、ベッド数、医師数、有名な先生がいる、かかりつけ医の先生のお勧め、ホームページの見やすさ、受付の対応など様々なポイントがあると思います。私たち医療界の内側からの意見として、研修医に人気のある病院という点も大きな評価ポイントになります。どうしてだと思われませんか？

現在、医学部を卒業した医師は2年以上の初期臨床研修を臨床研修指定病院で受けなければなりません。医学生は在籍している大学、地域に関係なく、全国どの臨床研修病院に応募しても良く、全国には多くの人気の高い研修病院があります。相対的に都会にある研修病院は人気が高いことが多いのですが、例外的に地方の研修病院でも人気の高い病院が存在します。それは研修医の目からみて、その病院の医療水準が高く、

魅力的な初期研修プログラムが組まれているからです。

近年、佐倉病院の初期研修プログラムは医学生から人気が高く、多くの応募をいただき、初期研修医の定員枠は5年連続して一杯(フルマッチ)になりました。これは佐倉病院の提供する高い専門医療だけでなく、温かい垣根の低い職種間を超えた職場環境も評価され、応募の決め手になっているようです。ただ、今後とも多くの医学生に我々の病院を選んでもらうためには持続的な臨床研修プログラム及び研修環境の改善が必要で、2020年1月31日に千葉県内8大学附属病院の中で初めてNPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による臨床研修機能評価を受審し、研修プログラムにとどまらず、ケアプロセスから医療安全までの病院機能の全般、研修医の待遇など厳しい審査を受けました。そして、佐倉病院は良好な研修プログラムと研修環境を提供しているとして、最良の4年認定をいただきました。

若い力は病院力を保つための源泉で、将来に向かって研修医のみならず、看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師・管理栄養士や共に働く事務の方の医療人としての育成のために、引き続き精進をして行く所存です。



アピールしたい

診療と研究

カラダにやさしい乳癌手術

さかきばら まさひろ
乳腺外科 教授 榊原雅裕



自己紹介

2018年11月に東邦大学医療センター佐倉病院外科に赴任致しました榊原雅裕です。専門は乳癌診療です。私は1994年に金沢大学医学部を卒業し、同年千葉大学第一外科に入局しました。外科一般および大学院での

研修の後、第一外科前教授宮崎勝先生（現国際医療福祉大学成田病院病院長・国際医療福祉大学副学長）と現教授大塚将之先生の下で乳癌の手術と臨床研究、特に新しい乳癌手術手技の開発と実践に従事しました。2016年10月から2017年4月まで米国シンシナティ大学メディカルセンターおよび韓国サムスンメディカルセンターに臨床留学（サバティカル研修）を経験しました。2017年10月に栃木県那須塩原市の国際医療福祉大学病院に異動し、堀口淳先生（現国際医療福祉大学成田病院乳腺外科主任教授）の指導を受けました。これまでの経験を生かし、印旛地区の乳癌診療の更なる充実に尽力する所存です。よろしくお願い致します。

診療

現在、佐倉病院乳腺外科は私と田中宏助教の2名で診療を行っています。私の赴任前の約1年間は乳腺外科手術の休止と外来の大幅な縮小が行われておりましたが、赴任後1年が経ち、佐倉病院の乳癌診療は元の姿に戻りました。今後、新しい入局者を迎え、更なる発展をしていきます。

私が当院で自信を持って提供するのは『カラダにやさしい乳癌手術』です。これまでの自身の手術研究成果を実践し、切除範囲の最小化による乳房をキレイに残す乳房部分切除（乳房温存手術）は勿論のこと、低侵襲の乳房切除（全摘）にも力を入れています。乳房温存手術は乳房部分切除と残存乳房への放射線照射の組み合わせを

言いますが、近年増加している高齢者の乳癌患者では、放射線照射を回避するために乳房全摘を希望される方がいらっしゃいます。このような方には、当科のカラダにやさしい乳房全摘が最適です。乳房全摘の方の退院は、本邦で最も早いことを自負しております。

現在の乳癌診療のキーワードは『再建』と『遺伝』です。当院は充実した形成外科と臨床遺伝診断センターを持ち、乳房再建と乳癌遺伝診断において当地区の中核機関となる使命があります。乳房再建では、乳房切除後にインプラントや自家組織の留置が行われます。ここにも当科のカラダにやさしい乳癌全摘が至適で、キレイで合併症の少ない乳房再建を目指しています。

研修・研究

佐倉病院では私たち乳腺外科をはじめ、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科が佐倉病院の外科（岡住慎一教授）として外科研修を行います。将来の当地区の乳癌診療を支える十分な外科技量を持った新しい乳腺外科医を多く育て、印旛地区の先生方から如何なるときにも信頼される乳腺外科を構築して行きたいと思えます。また研究では、私の得意とする手術に関する臨床研究を手掛けて参ります。

さいごに

今後多くの若手医師を育て、地域の先生方から信頼される佐倉病院乳腺外科を創ります。そのためには地域の先生方からのご指導が欠かせません。当地区の乳癌診療を発展させることをお約束致します。今後ともよろしくお願い致します。



昇任紹介

遺伝性腫瘍に対する臨床遺伝診療センターの取り組み

臨床遺伝診療センター 部長／臨床教授 たけした なおき 竹下 直樹



臨床遺伝診療センタースタッフ

4月1日から東邦大学教授（臨床遺伝診療センター）として、佐倉病院に勤務することになりました。1988年に医師免許取得後、産婦人科医として医療センター大森病院・佐倉病院に於いて32年

間、主に妊娠や分娩の領域で皆様の健康管理のお手伝いをして参りました。今回、教授職を拝命し、私の特に専門であります遺伝領域に関して、さらに研鑽を積み、地域の皆さまのお役に立つことが出来ますよう、努めて参る所存であります。どうぞ宜しくお願い致します。

最近“がんゲノム医療”という言葉を目にした方も多いと思います。これまでのがん治療は、外科的療法、それに続く病理組織学的な診断に基づいた薬物療法（化学療法）を標準治療として行われてきました。近年、次世代シークエンサー（NGS）により、短時間に網羅的なゲノム解析が可能となり、がんの病因が遺伝子変異に基づくことも明らかとなってきました。その結果、創薬の

分野においても遺伝子発現を標的とした開発が行われ、分子標的薬として新薬を使用する事ができ、有効な治療効果を得る事が可能となっています。

乳がんや卵巣がん、また前立腺がんさらには大腸がんなどの一部には、遺伝性腫瘍（家族性腫瘍）と呼ばれ、原因遺伝子の解明、それに対応する薬の開発・研究が世界的に精力的に行われております。遺伝性乳癌卵巣癌症候群はその代表であり、常染色体優性遺伝形式をとるBRCA1/2遺伝子の変異により発症することが判明しています。腫瘍組織の遺伝子検査の結果が、その後の治療選択に影響することもあります。一方、腫瘍細胞の遺伝子検査は体細胞系列ではありますが、BRCAのように生殖細胞系列（いわゆる遺伝性）にも変異を認めることもあり、その場合、次世代・同胞などへの同遺伝子の伝播による発症について十分に留意する必要があります。したがって、遺伝学的検査を実施するうえで、本人はもとより家族に対するリスク・ベネフィットの説明は不可欠であります。臨床遺伝診療センターでは、遺伝カウンセリング外来において、検査の医学的な情報や、検査に伴うご家族の皆様の不安など精神的な支持にも配慮し、十分な時間をかけ丁寧に行っています。どうぞ、先生方の日常のがん診療の中で、家族の影響が危惧されるようなケースなどがある場合は、是非、お気軽に当センターをご利用下さいませようお願い申し上げます。

透析室について

透析室の機能と患者動向

腎臓内科 准教授 おおはし やすし 大橋 靖



透析室スタッフ

腎臓は、私たちが生きていく上で生成された不要な老廃物の排泄、体水分量やミネラルバランスの調整を行う重要な役割を担っています。腎臓の動きの指標である「クレアチニン」は腎臓のろ過機能が50%程度失われると上昇し始め

ます。ある程度の腎臓の機能低下であれば薬剤などでそれらの機能を補うことができますが、残された腎臓の動きが10%程度になると尿毒症症状が出現し、むくみの管理が難しくなり、ミネラルバランスが崩れ、酸血症が顕在化し健康を維持することが困難になります。「今ある健康」を守っていくため腎代替療法のひとつとして血液透析があります。

2019年12月にICUに隣接した6+個室1床の血液浄化療法センター（人工透析室）を開設いたしました。当センターは地域医療支援病院および日本透析医学会認定施設として以下を目的としています。

1) 慢性腎臓病（CKD）ステージ5患者さんの透析療法への移行（透析導入）

- 2) 慢性維持血液透析（HD）患者さんの入院期間中のサポート
- 3) 重症疾患を含む急性腎障害（AKI）患者さんの急性血液浄化療法および透析療法
- 4) 特殊血液浄化療法（血漿交換療法など）
- 5) 透析医療に従事する職員の育成

透析導入後は地域の慢性維持透析医療機関での維持透析をお願いしております。今後も15科と14センターと協力しながら透析の必要な患者さんの様々な合併症に対応してまいります。

透析患者数の推移

	2016年	2017年	2018年	2019年
透析導入患者数	5	12	22	35
透析・血液浄化療法患者数	67	90	134	135

まだまだ経験不足なところもありますがICU透析スタッフも徐々に透析医療に習熟してきております。入院中の透析医療が安心してお受けいただけるように努めてまいります。引き続きよろしくお願いたします。



透析室

第13回・第14回 医療連携セミナーを開催して



医療連携・患者支援センター長 よしだ ともえ 吉田 友英



第13回講演：舘田一博先生



第13回質疑応答の様子

2020年7月31日(金)に第13回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナーは、新型コロナウイルス感染症の影響により本年度初めての開催となりました。6月中旬、感染が収まりかけたと思われた頃に急遽今回のセミナーを企画いたしました。

7月に入り感染者数は増加の一步をたどり、ついには東京都では1日感染者数が400名を超したその日にセミナーは開催されました。

日本感染症学会理事長、東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授 舘田一博先生より「新型コロナウイルス感染症：医療現場で求められる知識と対

策]のご講演をいただきました。また、当院院長補佐、感染対策室室長であります長島誠より「当院における新型コロナウイルス感染症感染対策と診療体制について」の説明を致しました。

感染拡大とともに舘田先生のメディア出演が増加しているご多忙な中で、ご講演を賜りましたことに深く感謝申し上げます。あまりにもタイムリーな講演だったために多くの皆様に興味を持っていただき、会場に72名、WEB参加は51名となりました。今回初めての試みとしてWEB配信を行いました。配信業者をお願いすることなく当院関係者が何度も準備を重ねての配信となりました。行き届かない点もあったかと存じますが今後の課題とさせていただきます。講演後の質疑応答も活発で様々な観点からのご質問があり、改めて皆さんの関心の強さを実感いたしました。この原稿が皆様の目にとまるときには、少しでも感染の拡大が鎮静の方向に向かっていることを心より願っております。



第14回特別講演：金村英秋

2020年8月27日(木)には第14回 医療連携セミナーを開催し、会場に12名、WEB参加は21名となりました。一般演題では小児科 助教 井村求基、同医師 高山和子に「ご紹介いただいた症例の報告」と題して2例の症例報告をしました。特別講演では同教授 金村英秋による「脳液検査の活用法～てんかん/発達障害診療における新しい考え方～」の講演を行いました。配信業者の介入もあり、会場とWEB参加者による質疑応答にも対応することができ、有意義なディスカッションの場となりました。

両日とも講演会終了後の情報交換会は残念ながら開催できませんでしたが、今後も医療連携の構築に貢献できればと考えております。

次回以降の医療連携セミナーは下段の通り予定しております。皆様との連携のさらなる発展のためにご紹介いただいた症例のご報告と特別講演を企画しております。今後も多くの医療機関の方々にご参加いただき、地域との「顔の見える医療連携」、「対話する医療連携」をめざしてまいります。

今後ともご参加のほどよろしくお願いいたします。

医療連携セミナー開催のお知らせ

第15回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナー

- 開催日時：2020年10月1日(木) 19:30～20:45
- 開催場所：東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂
- 一般演題：「紹介患者の報告」
- ミニレクチャー：「僧帽弁手術/大血管手術の進歩」

出席いただける方は、医療連携・患者支援センターまでご連絡ください。

第16回 医療連携セミナー

テーマ：腎臓内科
開催日時：2021年1月29日(金) 19:20～20:45

第17回 医療連携セミナー

テーマ：泌尿器科
開催日時：2021年3月11日(木) 19:20～20:45

詳細は後日お知らせ致します。

2020年度 公開講座中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症は日々状況が変わっており、今後の見通しが立たないことから2020年度の公開講座は中止することになりました。誠に残念ではございますが、皆様の健康と安全を最優先に考えこのような決断をさせていただきましたことに、ご理解の程お願い申し上げます。2021年度の開催に向けて改めて検討をして参ります。

皆様におかれましてはくれぐれも気をつけていただき、感染対策にご協力をお願い申し上げます。